

2019



School of Medicine and Medical Sciences

筑波大学 医学群

医学類・看護学類・医療科学類

Medicine

Nursing

Medical Sciences

CONTENTS

医学群	1
-----	---

医学類

●教育	2
●卒業後の進路	4
●在校生・卒業生からのメッセージ	6

看護学類

●教育	8
●卒業後の進路	10
●在校生・卒業生からのメッセージ	12

医療科学類

●教育	14
●卒業後の進路	16
●在校生・卒業生からのメッセージ	18

キャンパスライフ	20
----------	----

筑波大学における医学研究分野	22
----------------	----

FAQ	28
-----	----

入学試験案内	30
--------	----



医学類

School of Medicine

筑波大学
医学群

看護学類

School of Nursing

医療科学類

School of Medical Sciences



医学群は医学に関係する学問分野の教育を担当する3つの学類(医学類・看護学類・医療科学類)で構成されます。いずれも病気の予防、診断・治療、看護を目指す医療者と医学研究者の育成を目的としています。

医療と医学研究は、個人や社会にとって最善の治療や解決策となるものを探り続けねばなりません。医学群の教育方針は、様々な問題に多様な考え方で適切に対応できるように、「自分で問題を考えて、解決する力と方法を身に付けていく」ことに力点を置いています。

医学類では6年間、看護学類、医療科学類では4年間、一般教育から専門分野まで幅広い学問分野にわたって、一貫教育を行います。

Medicine

医学類



新しい医学教育

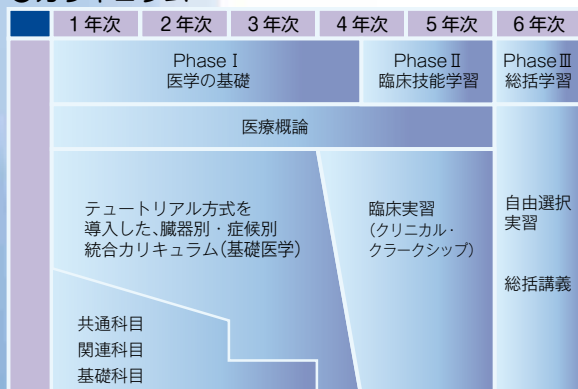
最近の医学のめざましい進歩と医療へのニーズの変化に伴い、医学生が学習すべきものが変わってきました。最新の知識を詰め込んで卒業したとしても、そのままでは日進月歩の医学と医療の世界では取り残されてしまいます。未知の問題を解決する能力を獲得し、かつ卒業後も自己学習・自己啓発を続ける能力を養うことに教育の重点を置いています。

更に、医師には医学知識のみではなく、患者さんの気持ちに配慮して良好な関係を築ける豊かな人間性が求められています。医学類では、知識・技能・態度教育のバランスを重視してカリキュラムを組んでいます。

■カリキュラム概要

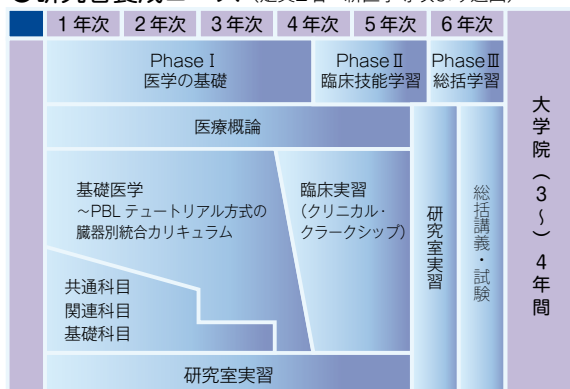
筑波大学は開学以来、様々な学問分野の講義・実習を組み合わせた「統合カリキュラム」を取り入れ、先進的な独自の6年間一貫のカリキュラムを誇ってきました。平成16年度からは、様々な医学・医療の現場を体験し、問題点を自ら考え分析し解決する能力を養うための「新・筑波方式」と呼ばれる新たなカリキュラムを導入しました。具体的には、1～3年次は、少人数グループで課題を討論する能動的な学習方式(問題解決型テュートリアル)を主体として、4～5年次には、医療チームの一員“Student Doctor”として長期間の臨床実習を行います。6年次には大学内外の施設(海外も含む)において、自分の興味のある分野の実習を行い、社会に向けてのインターンシップとして仕上げとするプログラムとなっています。

●カリキュラム



※編入学の年次は第2年次

●研究者養成コース (定員2名：新医学専攻より選出)



※6年次：月額5万円奨学金

① Phase I 医学の基礎（1～3年次）

生命科学やヒトの構造と機能の基礎、ヒトの正常と病態について学びます。学習形式は「問題解決型テュートリアル」を中心としており、シナリオ（患者さんのストーリー）を用いて、ナビゲーター役の教員のアドバイスを受けながら、少人数グループでの討議・自己学習・レポート作成を行います。小グループ討論の前後には、学習の鍵となる講義・実習もなされます。具体的には、1年次「生化学」「組織学」「分子細胞生物学」など基礎医学中心のコース、2～3年次「消化系」「循環系」など臨床医学を中心とするコース、「医療と環境」など社会医学を中心とするコース、計28コースから構成されています。これら全てが基礎・臨床・社会医学の分野が統合されて組まれています。

② Phase II 診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）（4～5年次）

4年次春学期の臨床実習前の演習（診察法・診療録の書き方など）を経て、秋から6年春までの1年半をかけて臨床実習を行います。学生は診療チームの一員として、患者さんを受け持ち、実際の診療を通して、医療面接、診察法、基本的な手技、医師としての適切な態度などを確実に身につけます。更に、単に「病気」を学ぶのではなく、患者さんの思い、悩みを含めて問題をとらえ、他のスタッフと協力しながら、問題を多面的に解決する能力を身につけます。5年次後半では、長期の院外実習があり、地域の病院・診療所などにおいて大学病院とは異なる住民に近い医療現場で学ぶ機会を用意しています。



白衣授与式

③ Phase III 自由選択実習（6年次）

完全な選択制で、各自の希望により、大学内外の施設（病院、クリニック、緩和ケア、救急、行政など）、海外の病院実習、研究室などで実習を行い、将来の進路を決定する手がかりになります。

④ 医療概論（1～5年次）

医師に求められる臨床能力について、医療倫理、チーム医療、ヘルスプロモーション、医師患者関係などの臓器別・症候別の枠組みでは修得が難しい領域について体系的に学ぶことを目的として、1～5年次を通じて設置されています。入学直後の時期に行われる外来患者さんの付き添い実習の他、2年次の「在宅ケアコース」、3年次の「地域における健康教育」など、この多くが「体験型」のプログラムとなっていることが特徴です。

⑤ 研究室演習・医学研究者養成コース「新医学専攻」（選択）

放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、学生時代から最先端の医学研究を行うことができます。その延長で5年次後半・6年次に医学研究者養成コースである「新医学専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されています。

■ 充実した教育設備

学生の自主的な学習を促すために、医学図書館は夜も開かれている他、全てのセミナー室にはネット環境が整備されており、e-learningシステムを活用して学生が必要な時に、病理組織標本・講義中継録画などにアクセスして自習できます。またスキルスラボには、身体診察や救急蘇生を練習するためのモデルが多数整備されています。



実習風景



体験から学ぶ ～高齢者・妊婦体験

卒業後の進路

取得資格

医学類の学生は、卒業時に学士(医学)の学位と医師国家試験の受験資格が得られ、通常2月に受験し、3月末に合格発表があり、4月から研修医として働きます。筑波大学医学類は例年医師国家試験の合格率が最も高い大学のひとつに入り、開学以来一貫して全国的に高く評価されています。2年間の卒後臨床研修は臨床医として働くために必修で、多くの場合、医師臨床研修マッチング協



議会のマッチング制度を利用して研修病院を決めます。2年間の研修後は、そのまま臨床研修を続け、多くの場合、各種専門医の資格試験や、大学院に入って博士(医学)の学位取得を目指します。筑波大学の医学類の卒業生で筑波大学大学院人間総合科学研究科(以前は医学研究科)に進学し博士(医学)の学位を取る人はおよそ3割です。臨床医として働くのに学位は必ずしも必要ありませんが、大学病院で医師として働くとともに教育に携わったり、医師として働きながら研究も行う場合には、学位を取得すべきです。

臨床医

卒業生の多くは、本学附属病院をはじめ全国の研修病院で研修を受け、臨床医としての道を歩みます。平成16年度から全国的に卒後臨床研修が必修化されましたが、本学附属病院では全国に先駆けて昭和63年から卒後臨床研修部(現、総合臨床教育センター、<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/sotsugo/>)に専任教員を配置しています。ここでは、本学附属病院と指導体制や経験症例数などにおいて厳しい認定基準をクリアした茨城県内の院外研修施設での研修を組み合わせた先進的なプログラムのもとで研修医が質の高い研修を受けられるように整備しています。また、各学会の専門医制度も考慮したプログラムに

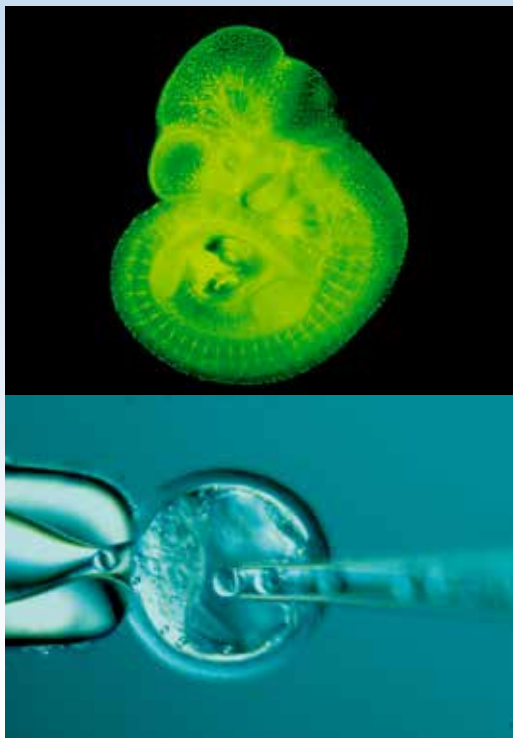


なっているため、レジデント修了後に試験を受けてそれぞれの領域の専門医になることができます。筑波大学附属病院では、平成24年に新棟(けやき棟)が完成し、各分野で世界の最先端の医療が実施できる診療・研究・教育の拠点としてさらなる発展を続けています。

研究者

基礎医学・臨床医学・社会医学それぞれの最先端の研究をめざす卒業生は、卒業直後あるいは臨床研修後に大学院に進学するのが一般的です。筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科(<http://www.chs.tsukuba.ac.jp/>)では、恵まれた環境で自ら研究を行うことにより、専門知識と高度の研究技術を習得することができます。

また、総合大学の特徴を活かし、神経科学やスポーツ医学などの広い範囲にわたる研究が可能です。医療はいまだ不完全であり、新たな医療技術の確立を究極の目的とした医学研究は、現在病める患者の診療にあたる臨床医学とともに医学の重要な一分野となっています。大学院での研究は、医学の進歩をリードする先進的なもので、国際的に高い評価を受けている研究がたくさんあります。博士課程を修了し論文審査に合格すると博士(医学)の学位を得ることができます。



行政官

医療・保健・福祉に携わる行政官として、厚生労働省や都道府県の保健福祉部などに進む卒業生が増えています。国内のみならずWHOなどの国際行政官として活躍している卒業生や、国際医療協力の第一線で貢献している卒業生もいます。

教育者

卒業生のうち、現在約220名(医学類全教員の約半数)が母校の教員として在籍し、後進の指導に当たっています。医学群の独創的なカリキュラムで学んだ経験を活かし、優れた医師の養成のために大きな役割を果たしています。

また、筑波大学のみならず、国内外の大学の教員になっている卒業生も多く、高い評価を受けています。



妊婦検診(ユニセフ東京事務所代表 平林国彦氏(5回生)を通じ、ユニセフインド事務所より提供)



母校での授業



筑波大学外科医による手術デモに見入るチョーライ病院レジデント

在校生・卒業生からのメッセージ

宮内 順也さん

2年生

私立江戸川学園取手
高等学校出身

皆さん、こんにちは。医学類2年生の宮内 順也と申します。私は、医学類ではどのような授業が行われているか、さらに医学類の学生たちのクラブ活動などにつきまして説明致します。

医学類に入学しますと、すぐに早期体験学習として、筑波大学附属病院で患者さんたちと接する機会があり、その後一年次に医学の専門科目として、生化学・組織学・分子細胞生物学などを学習します。これらを通して私は、医学類6年間で医学を学ぶことの重要性はもちろんのこと、医師として生涯を通して常に最先端の医学を学び続ける姿勢を持たなければならないと思うようになりました。

その一方で筑波大学は総合大学ですので、医学類の授業に加えて他の学類の授業を履修して学ぶことで幅広い学際性を身につけることができる制度を設けています。私は生物学類での講義や体育専門学群の講義を履修することで、医学類での専門科目で学んだことをより幅広く理解していくことにも努めています。さらに夏休み等に開講される他学類の授業を自主的に履修して、医学以外の他分野も勉強していき教養を深め、学際的な勉学に励めます。私も1年生の夏休みにはメディア論および学習障害児童に関する授業などをもって学ぶことができました。

医学類の学生たちのほとんどは放課後、クラブ活動に参加しております。特に運動部の入部率は8割を超え、さらに各種の文化系クラブ活動も盛んであり、二つ以上のクラブに所属をして活動をする学生もいます。私は医学卓球部に入部しており、一週間に3日程度の練習や試合遠征をしています。先輩・後輩たちと一緒に汗を流し、練習終了後は皆で一緒に夕食を食べる機会が多々あり、とても楽しく貴重な時間を過ごしております。

このように、医学類の学生生活は、充実したカリキュラムの基に勉学でき、各クラブ活動や学園祭といった楽しいイベントも多くあります。皆さんのご努力が実ることを心より祈念致し、来年度に医学類キャンパスでお会いできますことを楽しみにしております。

浅井 玲央さん

4年生

県立藤島高等学校出身

筑波大学医学類に興味を持ってくださっている皆さん、こんにちは。医学類4年の浅井玲央です。私が今までこの筑波大学で過ごしてきて感じた、筑波大学の魅力を、たくさんある中から2つだけ紹介したいと思います。

1つ目は部活動やサークルを通じて、学群や学年を超えた仲間たちがたくさんできることです。筑波大学は総合大学であるため、医学系、体育系、文化系など多様な部活動・サークルが存在しています。私自身が所属している医学水泳部という部活では、医学系以外の学生が多く所属していることが特徴で、理工学系や文系の友人たちがたくさんおり、大会で良い成績を残すために日々切磋琢磨しています。そして練習だけでなく、夏はバーベキューや海へ行って遊んだり、冬はスキーへ行ったりと、プライベートでも部活動の仲間たちと充実した大学生活を楽しんでいます。医学類には、私のように医学系の部活動・サークルに所属している人から、体育専門学群のトップアスリートたちと同じ部活動に所属してスポーツに打ち込んでいる人、留学生と交流するサークルに所属している人、バンドやオーケストラに参加している人まで、色々なことにチャレンジしている人が多いです。高校までやっていたことを続けたり、大学から新しいことを始めたり…きっとこの筑波大学で自分に合った部活動やサークルを見つけ、総合大学ならではの分野を超えた仲間たちと充実した大学生活が送れるはずです。

2つ目は最先端の研究に触れられることです。医学類では1年次から4年次まで、自分の興味のある研究をしている研究室へ行き、最先端の研究に触れ、実際に研究に参加したりすることができます。また研究の道に進みたいと思った場合には、5年次から6年次にかけて「新医学専攻」というコースを選択することができ、さらに深く研究を進めて将来の進路につなげることでできる環境が整っています。さらにその研究室も基礎医学・臨床医学・社会医学といった幅広い分野から選ぶことができます。私自身もある授業をきっかけに興味を持った研究室に通い始め、実験に参加させてもらったり、学会で発表させてもらったりして、様々な経験をさせてもらっています。

都心にも近く自然豊かなこの筑波大学では、学業面以外でも楽しく充実した大学生活が待っていること間違いなしです！ぜひ筑波大学へ来てみてください。皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

前島 拓矢さん

6年生
2年次編入
東京大学教養学部出身

かつての世界医師会会長で、公衆衛生学の研究者であるMichael Marmotは、自身の著書の中で“Why treat people and send them back to the conditions that made them sick?”と述べています。最近になり、貧困や経済格差、労働環境、幼少期の体験、住む地域の違いなどの社会的要因が、人々の健康に大きな影響を与えるということがわかってきました。病院に来院した患者さんを医学的な面から治療するだけではなく、その背景に何があるかまで考えていかなければその患者さんが抱える根本的な問題の解決には至らない、ということの意味しているのだと思います。

このような一見医療とは関係ないようなことも含め、医療の発展に伴い医療系学生が学ぶことはどんどん増えています。正直言って、かなり大変です。それでも、将来医療者になる1人として、しっかり大学で学ばなければならない。

一方で、大学に入ったからと言って、自分の学びたい知識が得られるとは限らないと思います。必修以外の授業を取ることであったり、大学の外に学びに行くことであったり、積極的な姿勢が必要になることもあります。大学に入ってからこそがスタートなのです。さらに言えば、医療者になることがゴールとも限らない。どのような医療者になるのか、例えば大学病院で働く、過疎地域で働く、基礎研究に携わる、行政に関わる、他にもいくらでも選択肢はあります。自分はどのような医療者として社会にコミットメントしたいのか？

そんな学生の思いに応えてくれるのが、筑波大学医学群医学類の誇るべき点だと思います。たった1人の学生の勝手な思いに、先生が豊かな知識と経験を持って真正面から対峙してくれる。「こんなことを学びたい」と言えば、それにとことん付き合い、きっかけを与えてくれる。こんな先生と学生の距離が近い大学はなかなかないと思います。もちろん、積極的に学び続ける魅力的な学生もたくさん待っています。自分のアツイ気持ちを思いっきりぶつけたいみなさん、ぜひ筑波大学で爆発させて来てください！

受験生の皆さん、こんにちは。筑波大学附属病院に消化器内科医として勤務している丹下善隆と申します。2013年に筑波大学を卒業し、当院で2年間の初期研修プログラムを修めた後に消化器内科の道へ進みました。茨城県水戸市出身で、高校まで水戸で過ごし、大学からつくばでの生活を始めました。

つくばは緑が多く過ごしやすいいことに加え、都心へのアクセスも1時間以内でもあるため利便性も兼ね備えています。休日は筑波山登山など自然に触れたり、東京に日帰りで足を運ぶこともよくありました。最近は開発が進み、大規模なショッピングモールや、コストコなどの生活に直結する店も増えています。さらにおしゃれなカフェやレストラン、居酒屋も充実しています。中でもラーメン店は多く、行列が出来る有名店もあることから友達とよく行っていました。

部活動やサークル活動も充実していて、私は医学硬式庭球部でテニス漬けの学生生活を送りました。周りには部活動に打ち込む人、留学する人、研究室で勉強する人、病院実習で医療過疎地域に出向く人など様々でした。大学生活を送る上での選択肢が多いので、それぞれが目指す大学生活に近づくことが出来ると思います。

私が大学卒業後につくばに残った理由として、当院の臨床研修プログラムが魅力的だったことが大きかったと思います。稀な病気や治療の難しい病気、風邪などありふれた病気、色々な患者さんがいますが、実際のところ一つの病院でバランスよく診るのは難しいと思います。当院では、大学病院と地域の中核病院、街中の一般病院のなかから複数の病院を選択することでオリジナルの研修プログラムを作ることが出来ます。

皆さんはどのような大学生活を送り、どのような医師になりたいというビジョンはありますか。皆さんが目指す医師像に近づける生活がつくばにはあると思います。

筑波大学医学群医学類を目指す皆さんへ。私は1984年に筑波大学を卒業した山縣邦弘と申します。現在母校の腎臓内科部門の教授として筑波大学で働いております。私が5回生として筑波大学に入学し、早いもので、もう30年以上の月日がたちました。筑波大学を卒業後は筑波大学附属病院で研修を行い、後期研修終了までさらに6年間をつくばで過ごし、その後茨城県内の一般病院での勤務を経て母校の教員を約15年前から務めております。私の学生時代は陸の孤島といわれた筑波大学ですが、今では東京の中心からつくばまで45分で行ってしまう通学圏内となっており、本当に隔世の感があります。

筑波大学は、総合大学の特性から、基礎科学の部門が非常に充実しており、医学はもとより、生物、生命科学の最先端の研究が行われていること、さらには、医学部門と同時に体育科学部門もあり、スポーツ医学、運動療法などの研究も盛んに行われております。さらに研究学園都市といわれるように、多くの研究機関が集積しており、世界最先端の科学研究の成果を上げている研究者が至るところにおられ、研究や学問を行うには最適な環境にあります。さらに最近では、筑波大学自身が海外の大学とも積極的に交流協定を結んでおり、アジアはもとより、ヨーロッパ等世界各地の大学の学生、教員の交流を積極的に行っております。医学生として在学中も、このような海外の大学への留学のチャンスも数多くあります。

車でつくばの中心から5分も行けば、長閑な田園風景が広がります。そこへ東京まで行ける鉄道は早朝から深夜まで往復しており、勉強や研究だけでなく余暇の過ごし方もほぼ完璧に充実している状況になりました。つくば駅からその気になれば歩車分離のペDESTリ안을多くの緑に囲まれながら池や公園を横目に見て、徒歩で大学構内までたどりつくことができます。まずは一度つくばまで足を運んでみて下さい。多くの皆さんが筑波大学へと進路を選択されることをお勧めすると同時に、充実した学生生活が送れることを請け負います。

山縣 邦弘さん

昭和59年度卒業
筑波大学医学医療系教授

Nursing

看護学類



教育理念

科学性と共感性を基盤とした看護学の専門能力を身に付け、保健、医療、福祉、教育、心理など多職種チームの一員として人々の健康生活の向上や改善を図り、広く人類のウェルビーイングに貢献できる人材を育成します。また、教育者、研究者、管理者としてそれぞれの専門分野で指導的役割を担い、国内はもとより世界で活躍できる人材の育成を目指します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目(基礎科目)、専門的な教育科目(専門基礎科目、専門科目)が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特長のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権を擁護し、受容・共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高い倫理観に基づいた行動ができる能力を養います。
3. 看護専門職に必要な知識・技術を習得し、適切な判断で看護活動が展開できる能力を養います。
4. 人々の健康生活を援助し、QOLの向上に貢献できる能力を養います。
5. 社会情勢の変化や科学技術の進歩に適応し、新たな看護を展開できる能力を養います。
6. 保健医療福祉などの関連領域の人々と協働し、リーダーシップを発揮できる能力を養います。
7. 研究的素養を育みつつ、生涯にわたって学習を継続できる能力を養います。
8. 国際的な志向を有し、グローバル水準に対応できる能力を養います。

看護学とは

看護学とは人が生まれてから死を迎えるまでに直面する健康のあらゆるレベルの問題を人々が解決しようとするプロセスを支援する学問です。つまり看護は、病気や障害の治療過程に関わるだけでなく、身体的、精神的、社会・文化的に健康でその人らしい生活が営めるよう地域や家族を含めた、病気の予防・健康の維持・増進に働きかけます。そして看護の対象となる人間のからだの構造・機能や疾病の学修のみならず、人々の生活環境や文化的背景、人間の発達に伴った社会・心理学的変化などの理解を通して、豊かな人間性を育む学問ともいえます。人々に看護を提供するための専門技術は、こうした幅広い人間理解と科学的な理論を基盤とした看護学のさまざまな演習や実習を有機的に取り入れながら習得していきます。

学ぶことは

看護学のカリキュラムは「人間」「健康」「環境」そして「看護」の4つの柱によって構成されています。

看護学類では「人間」の生の営みにおける看護の役割を理解しやすいように「環境」を「生活」という概念で捉え直し、看護学の主体性を明確にしつつ、視野の拡大と専門性を深めるために医学、心理学、社会学などとの連携を図ったカリキュラムで学びます。専門基礎科目では「こころと行動の科学」「人間と生命科学」「生活支援科学」を3本柱として、人間の多様性と幅広い価値観などについて学びます。

専門科目は「生活援助基礎」「看護実践科学」「応用看護学」から構成され、また、看護の探究に関する科目、そして選択として保健師、養護教諭に関する科目を開設します。「生活援助基礎」では看護の基本となる基礎技術を実習により習得するとともに看護生命倫理、フィジカルアセスメント、生活援助論などの理論を、「看護実践科学」では地域看護学、成人看護学、精神看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学などの理論と実践技術を習得し、「応用看護学」では、在宅看護、国際保健、研究方法などを学修します。さらに医療チーム連携演習(ケア・コロキウム)では医学類や他学類において医療・福祉に関連した科目を学ぶ学生たちとともにチーム医療を学びます。

授業科目 [正式なカリキュラムは4月に発表となります]

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
基礎科目	総合科目Ⅱ 体育実技 第1外国語		総合科目Ⅲ 医療経済学	応用看護学演習 医療チーム連携演習 総合実習
	総合科目Ⅰ 情報 国語	カウンセリング論 臨床心理学 臨床薬理学 臨床病態学 疫学 環境保健学演習 障害理解 教育心理学 機能形態学演習 遺伝と健康 環境社会学概論	保健医療福祉行政論Ⅰ、Ⅱ 成人看護学演習 クリティカルケア看護学実習 セルフケア看護学実習 継続ケア看護学実習 精神保健看護学演習 精神看護学実習 高齢者ヘルスプロモーション論 高齢者看護方法論 高齢者看護学実習Ⅰ、Ⅱ 母性看護方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 小児看護学演習 小児看護学実習 コミュニティ・エンバウメント論 在宅看護論実習 国際保健学 研究方法概論 在宅看護論	看護師 保健師 養護教諭 選択
専門基礎科目	人間関係論 行動科学 人体の機能と構造Ⅰ、Ⅱ 人体の代謝と栄養 感染と免疫 人間環境論 保健統計学 家族社会学 人間工学 日本国憲法 食物・栄養学演習 子ども支援学	基本看護技術 基本看護技術演習 フィジカルアセスメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 家族看護論 健康教育論 成人看護学概論 成人疾病援助論 精神保健看護方法論 母性看護学概論 小児看護学概論 子どもの健康と障害 看護科学と社会	看護の探究概説 国際看護学／看護実践・ケアシステム開発学 看護人間工学／子どもの健康・障害支援学 女性の健康支援学／精神の健康・障害支援学 高齢者ヘルスプロモーション	看護師 保健師 養護教諭 選択
専門科目	基礎看護学概論 看護生命倫理 生活援助論演習 公衆衛生看護学概論 精神看護学概論 高齢者看護学概論 感染対策看護論	基礎看護学実習Ⅱ 家族看護論 健康教育論 成人看護学概論 成人疾病援助論 精神保健看護方法論 母性看護学概論 小児看護学概論 子どもの健康と障害 看護科学と社会	公衆衛生看護学活動論 教育内容・方法論Ⅰ、Ⅱ 障害児指導法 生徒指導・教育相談 養護概説 教育相談	看護師 保健師 養護教諭 選択
選択科目	教職論	学校保健 産業保健 教育基礎学 道徳教育 特別活動		

- 基礎科目
- 専門基礎科目
- 専門科目
- 看護師授業科目
- 保健師選択科目
- 養護教諭選択科目

注) 保健師コースおよび養護教諭コースは選択(選抜)制です。

卒業後の進路

看護師

看護師の役割は、健康上の問題から引き起こされる、人々の身体的、心理的な苦痛を軽減し、問題を抱えた人自らが、その問題を解決できるように支援することです。また、看護師は、医療の高度化に順応し、常に研究心を持ちつづける、科学的看護の実践者でなければなりません。

そのような看護師を育成するために、本学類では、総合大学の特性を生かし、看護学を中心にしながら、医学、心理学、社会学等との連携を図っています。また、実践能力の向上をめざして、臨地実習のほかに、臨床実技試験(OSCE)や、医学生や医療・福祉の学生たちとともにチーム医療を学ぶ医療チーム連携演習(ケア・コロキウム)といった、他大学でもまだ例の少ない先駆的な教育を実施しています。

本学類の学生は、卒業時に学士(看護学)の学位が与えられます。卒業後は、取得予定の国家資格を生かし、高度な医療を提供できる総合病院など、全国各地の医療機関で、看護師として勤務することが可能です。



保健師

【保健師とは】

地域には、乳児から高齢者まで、そして、健康な人から病気になってしまった方まであらゆる人々が生活しています。その方々の健康を守り、病気にならないように予防し、病気になっても早く回復できるように、そして、生きがいをもって健康的な生活ができるように、さまざまな支援活動を、公的な立場から行っている医療専門職が保健師です。

保健師の多くは、現在、市町村の保健センターや保健所において活動しております。また企業そして福祉施設でも活躍しています。(保健師コースは選択(選抜)制で人数制限があります。)

【保健師の活動】

- ① 地域の状況をアセスメントし、地域の健康問題を診断し地域の健康ニーズを把握します。
- ② 地域の人々の健康ニーズに応じた、さまざまな保健事業サービスを企画、展開します。
- ③ 公衆衛生の拠点である保健所においては、地域の健康を守る広域的、専門的、技術的な活動を行っています。
- ④ 地域の人々に身近な自治体である市町村においては、健康診査、健康相談、健康教室、家庭訪問などを行い、人々の健康を守る活動を行っています。
- ⑤ 保健、医療、福祉等のさまざまな方々と連携し、地域の人々の健康を守るシステムづくりに関して活動しています。



資格の取得状況と卒業後の進路

資格取得状況（新卒者）

	平成 28 年度			平成 29 年度		
国家資格等	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
看護師免許	74 名	74 名	100%	71 名	71 名	100%
保健師免許	30 名	30 名	100%	26 名	26 名	100%
養護教諭一種免許	5 名			6 名		

* 2012 年度入学者から看護学類での助産師教育は終了し、大学院で行っています。

進路状況

	平成 28 年度	平成 29 年度
病院等（看護師・助産師）	65 名	49 名
都道府県、市町村等（保健師）	7 名	13 名
養護教諭	2 名	3 名
進学（大学院等）	6 名	10 名
その他	1 名	7 名
合 計	81 名	82 名

養護教諭

養護教諭とは、学校で子どもの心身の保健管理・保健教育を担当する教員です。看護学と教育学の専門知識を兼ね備えた教員です。主に保健室に常駐し、けがや病気の応急処置、健康診断と保健指導、さまざまな問題や悩みをもつ子どもの健康相談、学校保健委員会のような委員会活動などを行っています。看護学類では、養護教諭一種免許状の取得に必要な看護学、教育学、心理学、医学などの科目が開講され、広い視野から学校保健・学校看護について学修しています。4 年次の養護実習では実践を通じて知識・技術を深めていきます。卒業後の進路には、大学院への進学や養護教諭としての就職などがあります。本学では将来指導的立場に立つための養護教諭専修免許状が取得できる大学院が設置されています。公立学校の養護教諭として就職する場合は、都道府県や市が行う教員採用試験に合格して採用されます。（養護教諭コースは選択（選抜）制で人数の制限があります。）

大学院への進学

平成 19 年 4 月、人間総合科学研究科に看護科学専攻[博士前期(修士課程)][博士後期(博士課程)]が開設されました。看護を通して人々の幸福を実現し、社会の改善向上を図り、文化の発展に寄与することを基本理念に、21 世紀のわが国における看護領域の最先端の研究や高度医療に精通した、保健・福祉の変化に柔軟に対応できる人材を育成してゆきます。大学院に進学することで、高度看護専門職業人や、看護の教育者・研究者を目指すことが可能です。

在校生・卒業生からのメッセージ

栗木 理花さん

2年生
東京都私立
山脇学園高等学校出身

皆さんこんにちは。看護学類2年の栗木理花と申します。早いもので入学してから1年が経ちました。毎日、勉強に部活、アルバイトや遊び…と充実した日々を過ごしています。これから、筑波大学を選んだ理由と私の大学生活についてお話したいと思います。

私は、小学校高学年の頃から漠然と看護師になる夢を持っていました。筑波大学を志望したのは高校1年生の時です。夏休みに学校説明会に参加し、看護学類の学生の楽しそうな大学生活、それぞれ明確な夢を持って勉強頑張っている姿に圧倒されるとともに憧れの気持ちを抱いたことを覚えています。その憧れも目標に変わり、ここで実習している自分や看護師として働く自分を想像して受験勉強の励みにしていました。

看護学類の授業は、1年生は教養科目と専門基礎科目が主です。高校までの授業とは異なり、自分の興味ある専門分野が多くなります。面白い反面、初めて学ぶ具体的な医学知識に驚きを感じることもあります。また、ひとつのテーマを自分なりに考え意見する講義は看護学類の特徴だと感じます。正解のない人間の様々な価値観に触れることで人としても成長できました。

そして、大学生活では勉強の合間に自分の時間を持つこともとても大切なことです。筑波大生は1人暮らしの人が多いですが、私は実家から車で通学しています。放課後は部活動で体を動かしたり、飲食店で接客のアルバイトをしたり、友達とご飯を食べたりして楽しんでいます。私は筑波大学で本当に大切な人々と出会い、つながりを持つことができました。このように、大学生だから挑戦できることや素敵な出会いがあります。その中で、今しかできない貴重な経験をして自分を高めています。

私は今、救急に興味があるため、将来認定看護師の資格を取得したいと考えています。看護学類での学びは新しい発見であふれているので、これから始まる病棟実習や専門科目の講義がとても楽しみです。ぜひ皆さんと一緒に、筑波大学で大切な仲間からたくさん刺激を受けながら充実した大学生活を送りましょう。

宮下 奈菜さん

3年生
東京都私立
普連土学園高等学校出身

受験生の皆さん、こんにちは。筑波大学看護学類の受験を考えている皆さんに筑波大学の魅力を少しでもお伝えできたらと思いメッセージを書かせていただきたいと思います。

私が看護師を志したきっかけは、看護師として働いていた祖母の存在があります。祖母のように思いやりを持って他者に接することができる人になりたくて、看護師という仕事を志そうと決めました。そのために、具体的にどの分野で看護師として働きたいのか考えたことがなかったため、現在様々な分野の看護について学び将来について考えています。私が学びの中で一番印象に残っているのは二年生の春の実習です。この実習では初めて受け持ちの患者さんを持ちます。実習が始まったばかりの頃は緊張で患者さんとうまく話せず、悩むこともありましたが、しかし患者さんと時間を共にし、自分にできることは何なのか考えていくことで患者さんとの信頼関係を築くことができたと思います。実習は正直辛いこともあります。ですがそれ以上に学べるものがたくさんあり、看護師になりたいという自分の思いが強くなる機会にもなりました。

筑波大学の魅力の1つとして部活動があります。たくさんのサークルや部活動があり、他学類の人と交流することができます。私は医学陸上競技部に所属しており、部活動と勉強の両立を目標にしています。この部活は医学群の学生が所属しているため実習に関すること、勉強に関することなど様々な話を聞くことができます。また実習先で同じ部活の先輩が働かれていますとすごく心の支えになることもあり、この部活で得られた人間関係はかけがえのないものだと思うことができます。

受験生の皆さんの中には看護師になりたいけれどまだ具体的にやりたいことが決まっていなくてもいい方もいらっしゃるかと思います。しかし筑波大学看護学類に入学したくさんの人と接して様々な考え方を学び、経験することで目標は必ず見つかるはずです。受験勉強は辛く、やめてしまいたいと思うこともあるかもしれませんが、それを乗り越えた先にある楽しく充実した大学生活を思い浮かべてぜひ頑張ってください。皆さんが入学されるのを心よりお待ちしております。

高久 結衣さん

4年生
茨城県私立茨城キリスト教
高等学校出身

受験生の皆さん、こんにちは。筑波大学看護学類の受験を考えている皆さんにメッセージを執筆させていただくにあたり、私が看護師を目指したきっかけから、これまでの学生生活を振り返りたいと思います。

私が看護師を志すようになったのは、幼い頃から通っていたかかりつけ医院での看護師さんとのふれあいがきっかけです。看護師さんが優しく話しかけてくれたことで治療に対する不安や痛みが和らぎ、いつか私も看護師として人の役に立ちたいと思うようになりました。数ある看護大学の中から筑波大学を選んだ理由は、県内の看護大学の中で唯一医学類と医療科学類があり、多職種との関わりを学ぶことができる環境だと考えたからです。基礎科目や総合授業、医療チーム連携実習などで看護以外の学生と関わり、様々な視点で医療を考えることができます。また、私は研究にも関心があつたため、看護学の研究に関する授業があることに魅力を感じました。これまでの様々な授業や実習を経て、研究に対する関心がますます高まりました。将来は臨床と研究の双方から、緩和ケアに携わりたいと考えています。

私の学生生活をより充実させているものは、部活動です。筑波大学には数えきれないほどの部活動・サークルがあるため、自分に適した団体を見つけることができます。私は医学水泳部に所属し、部活動と勉強の両立に励んでいます。この部活には、医学系以外にも理系、文系、留学生、大学院生など様々な分野の学生が所属しています。私はこれまでに多くの刺激を受け、自身の視野が大きく広がりました。また、自分の考えに固執せず、柔軟に物事を受け止める姿勢が身につきました。これらは、人それぞれ異なる生活背景をもつ患者さんを一番近くで支える看護師として働くうえで、とても大切なことだと思います。

受験勉強は辛いかもしれませんが、頑張りが見えれば素晴らしい大学生活が待っています。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

榎田 有希さん

4年生

平成29年度編入学

大阪府立大手前高等学校・
大阪赤十字看護専門学校
出身

受験生の皆さんこんにちは。これから筑波大学看護学類の受験を考えている皆さんに、編入学生の立場から見た筑波大学の魅力を紹介していきたいと思います。

先に、私が編入学に至った経緯ですが、専門学生時は看護師としての実践力を磨くことに必死で、興味関心を深める心の余裕がありませんでした。公衆衛生学についてさらに深く学びたい、いろんな人と関わる中で自分の世界を広げたいと思い、受験しました。

1つ目の魅力は、看護学類には様々な夢や目標に向かって努力している仲間がたくさんいるという点です。私の周りには、将来、国際連合の職員やJICA、国境なき医師団等に所属し国際看護に携わりたい人、看護系技官として国をより良くしたい人、看護教諭として学校保健に携わりたい人、大学院に進み助産師を目指す人、企業や地域で保健師を目指す人がいて、本当に目指す道は様々です。そんな仲間と一緒に学ぶ中で多くの刺激をもらいながら生活ができます。

2つ目の魅力は、総合大学であるという点です。空き時間に国際・障害科学・心理学・体育等、自分が興味のある分野の授業をとることができます。これらの授業や、サークル・部活動で他学類生と関わる機会が多くあります。例えば、私は医学水泳部に入学しましたが、そこでも医学群を初め、いろんな学類の学生が所属しているので、他学類の友人が増えました。彼らは、看護学と違う学問を学び、見る視点も違うので驚きや発見も多いです。

また留学生が多いのも特徴です。英会話サークルに参加し、実際に英語でコミュニケーションをとることで、ヨーロッパ・アジア・アフリカ等、多くの国籍の人と友達になりました。また、学生舎であるGlobal Villageに住み、日本とは違う国の人と一緒に暮らしています。このように国際色豊かな環境で多様な価値観に触れることができる環境が整っています。

今、大学生活を振り返り、入学して本当に良かったという思いでいっぱいです。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

受験生のみなさん、こんにちは！大学進学および進学後の進路の参考になればと思い、看護職としてのキャリアという視点で、約9年間の私の大学・大学院生活を振り返りたいと思います。

当時、みなさんと同じ高校生だった私は、青年海外協力隊の助産師として活動する夢に向かって、グローバルで開かれた筑波大学への進学を決めました。進学後、2年次の基礎看護学実習で、病院で療養生活を送る患者さんと初めて関わり、患者さんと関係性を築くこと、目の前の患者さんを看護するとはどういうことなのか考えながらケアすることの楽しさと難しさを学びました。患者さんともっと関わりたいと思い、2年半にわたって附属病院で看護学生アルバイトを経験させていただきました。健康障害のある新生児・乳児が入院する病棟で、実習生でもない、看護師でもない立場で、患児・家族と関わった経験は、私の中で本当にかけがえのない思い出です。そうした経験の中で、疾患を抱えた子どもと家族の看護を研究すること、次の世代に看護を伝えていくことや、他者とともに看護を考えることに強く惹かれるようになりました。

自分なりに看護と真剣に向き合う中で、高校生の頃に抱いていた助産師という夢は、小児・家族看護の研究/教育者として活動する夢へと変わりました。そのため、卒業後はそのまま大学院の博士前期課程に進学し、平日は大学院で研究を学び、土日は病院で非常勤看護師をする多忙な2年間を駆け抜けました。博士後期課程への進学に際して、日本学術振興会の特別研究員として採用していただき、現在は国からの支援をいただきながら研究に集中して取り組んでいます。研究の成果は、国内外の研究者と共有することで、大学や国の垣根を超えて看護の質の向上に貢献していくことができます。

卒業生の一例として、ご想像いただけましたでしょうか。IMAGINE THE FUTUREを胸に、あなたも、看護学類で自分だけの看護キャリアの礎を築きませんか？

私は現在、筑波大学附属病院の救急外来にて勤務をしています。筑波大学を知ったきっかけは、高校時代の先輩が筑波大学に在学しており、友人も筑波大学を志望していたことがきっかけでした。オープンキャンパスに来たときに、大学が緑に囲まれていることと、何より筑波大学の広さに驚きました。

筑波大学での授業は、専門の先生方が多くいるので、各領域の理論を学ぶことができます。また、演習や実習、グループワークがあり、就職に必要な考える力を身につけることができました。私が附属病院で実習したときには、学類ができて間もないこともあり、卒業生は少数でした。現在は多くの卒業生が附属病院に勤めていることもあり、実習のしやすさを感じられると思います。また、看護や医療に関連した授業だけではなく、他学類の授業を受けることができます。憲法や経済学、哲学、外国語などの講義を受けることができ、多様な知識を得ることができました。

勉学だけでなく、多様なサークル・部活動も盛んです。国立大学ということもあり、男性も多くいるので友人も作りやすい環境です。私は、大学時代に学類・サークル・アルバイトを通して、多くの友人と出会うことができました。

また、つくばは程よい田舎です。つくばに住めば、通学のために満員電車に乗る必要がありません。また、買い物や娯楽などの施設はあるため、遠出をする必要がありません。自然の中にも、都内にも1時間で行けるという好立地です。公園も多数ありスポーツを行うこともできます。広くキレイな部屋にも、安く住むことができます。

私は卒業後、千葉県総合病院に就職しました。しかし、つくばが忘れられず筑波大学附属病院に戻ってきました。通算10年以上、つくばに住んでいます。

筑波大学で、看護に限らず多くのことを学び、経験し、視野を広げてください。そして、よき友人と出会うことを願っています。みなさんの入学をお待ちしております。

田中 聡壮さん

平成21年度卒業

筑波大学附属病院
看護師

Medical Sciences

医療科学類



教育理念

医療を取り巻く状況は近年急速に変化しつつあります。感染症や生活習慣病の脅威、少子高齢化の進行、また子供たちの成育環境の悪化などが大きな社会問題となっている一方で、ヒトゲノムの完全解読宣言を受けて膨大なゲノム情報を利用して、種々の病気に対する新たな治療法の開発への期待も高まって来ています。臨床検査技術学の分野では、検査法の自動化と先進化にともない、これまでの検査室における検査にとどまらず、医師や看護師との強い連携のもとで、医療のプロフェッショナルとしての責任感と使命感を持ち、臨床に密着した業務を遂行する人材が必要になってきています。

本学類では、このような医療に対する社会の要請に即応するために、医療人としての責任感と使命感を身に付け、医科学の様々な分野で活躍するために必要な基礎的な知識、技能、態度を修得することを目指しています。

将来、医科学領域の研究・教育を推進し、また診断や治療に必要な新たな技術開発とその実践に関わって高度専門医療を担う人材を育成します。

教育目標

4年間を通して一般的な科目（基礎科目）、専門的な教育科目（専門基礎科目、専門科目）が以下の教育目標を基盤として構成されています。筑波大学の特徴のひとつとして他学類あるいは他学群の授業を受けることができます。

1. 基本的人権、公正な判断、及び高い倫理性に基づいて行動できる能力と様々な人間の状況や感情を受容し共感できる豊かな人間性を養います。
2. 高度の専門知識と技能を身につけると共に、適切な判断に基づく主体的な展開能力と将来を先見した専門能力を養います。
3. 医療・福祉などの他領域と連携し、人々の健康生活を援助し高いQOL (Quality of Life) 実現に貢献できる能力を養います。
4. 研究・開発に必要な創造力と学力を養うと共に、生涯にわたり自己学習を継続できる能力を養います。
5. 国際性を志向し、積極的に国際医療活動に対応できる能力を養います。

医療科学とは

医療科学とは、広義では医科学と同義ですが、狭義では基礎医学と臨床（あるいは社会）医学とを結び、人々の健康と安全に寄与する学問・研究です。

心電図、脳波などの生理検査や、血液、尿、組織などの病理、化学、生化学検査をする技術を習得してチーム医療に参加するとともに、疾病の診断や治療に必要な臨床研究や基礎研究を行って検査技術の新たな展開を目的とする学問です。

学ぶことは

1～2年次の教育課程は両専攻共通で、各主専攻を専攻するための基礎学力や基本的な態度、思考法を身につけます。人体の構造と機能、疾病の成り立ち、保健医療福祉、医学検査学、臨床病態学、医用工学などを履修し、両専攻に共通の基礎と技術を学びます。3年次より医療科学主専攻と、国際医療科学主専攻の2つのコースを選択できます。

医療科学主専攻では、生化学成分分析、病因・生体防御検査、生理機能検査など臨床検査に必須の理論と実際を学びます。臨床実習で臨床検査の現場を体験するほか、医療科学の最先端を体験する卒業研究に従事し、医療科学研究に参画できる資質を獲得します。

国際医療科学主専攻では、医科学領域のグローバルな課題に取り組むための専門英語コミュニケーション力と研究実践力を重点に修得します。



授業科目抜粋

	1年次	2年次		3年次	4年次
専門的な科目	人体構造学	分子生物学	医療科学主専攻	国際感染症学*	医療情報管理学*
	生化学	基礎医学総論		臨床薬理学*	医学検査学フロンティア
	微生物学	疫学		輸血学*	卒業研究
	保健衛生論	臨床病態学		遺伝子検査学	
	医学検査学	免疫検査学		病態検査学	
	医用工学	病理組織学		画像検査学	
	電子工学	細胞検査学		免疫検査学実習	
		血液検査学		臨床実習	
		生化学成分検査学		ケアコロキウム(チームワーク演習)	
		生理機能検査学		医科学英語論文講読の基礎*	
国際医療科学主専攻		病原微生物学	国際医療科学主専攻	医科学専門語学	医療科学特論Ⅱ
		RI検査技術学		医療科学特論Ⅰ	卒業研究
				医科学演習	
				研究演習	

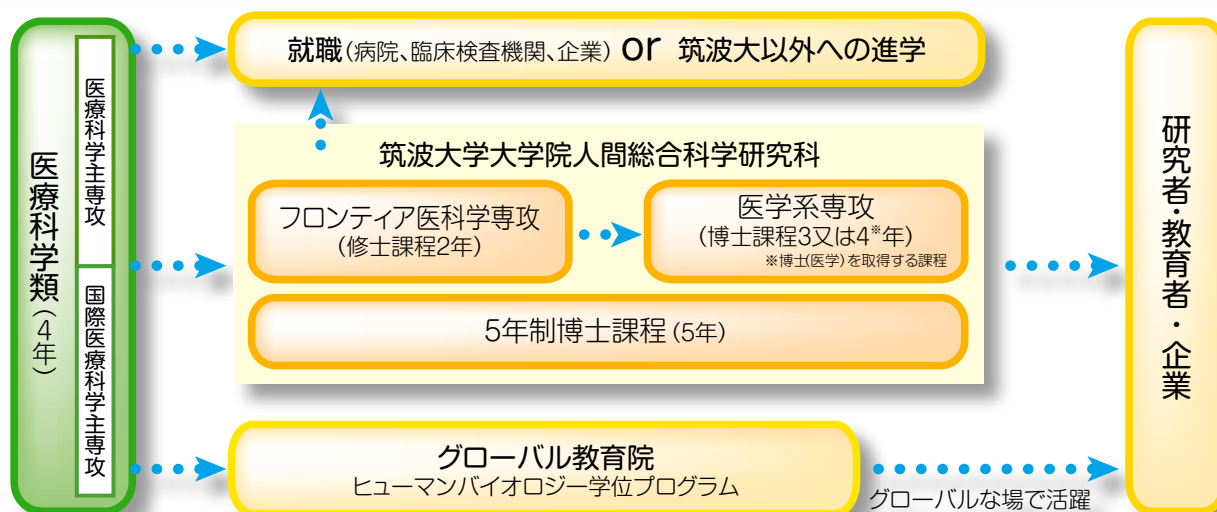
*は両主専攻共通科目

一般的な科目	体育	
	総合科目	
	フレッシュマンセミナー	
	国語	
	第1外国語	
	化学	
	物理学	
	生物学	
	情報処理	



卒業後の進路

医療科学類では4年の間に、臨床検査学の各科目をコアとして、広く医科学を学びます。卒業時には、臨床検査技師の国家試験受験資格が得られます。進学先としては、人間総合科学研究科の中のフロンティア医科学専攻(修士課程)があり、さらに博士課程への進学も可能です。就職先は、このような大学院における研究や臨床検査技師の資格を活かしたものになります。



進学

大学院に進学し、より深い医療科学の修得や研究を進め、将来研究者や教育者をを目指す道も用意されます。医療科学類卒業生の主な進学先である本学のフロンティア医科学専攻(修士課程)では、修了生が研究者・教育者あるいは高度専門職業人など多様な進路に進んで、安心して健康な社会の実現と維持のために活躍する人材となるように育成することを目的としています。

具体的には下記の人材の育成を目指しています。

- 大学などの研究・教育機関において医科学の基礎的研究の推進に貢献しうる人材
- 医療に関係する企業等において研究開発や医療関連業務に携わる人材
- 国際保健協力・医療行政・予防医学・労働衛生・医療施設管理・福祉などの分野において活躍できる人材
- 医療の安全や健康増進に資するための新分野を開拓できる人材

取得資格

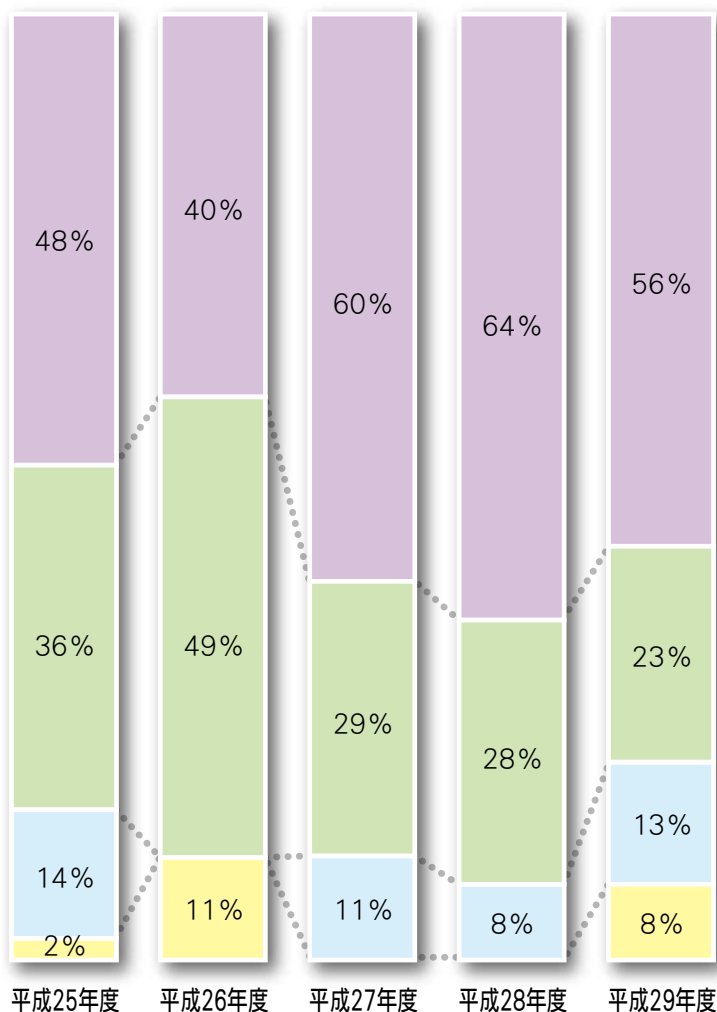
医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(医療科学)の学位と臨床検査技師国家試験受験資格が得られ、合格すれば臨床検査技師としての専門職に就く道が開かれています。その後、細胞検査士養成所に進学し、所定の教育と試験を受けて細胞診の専門家になることもできます。臨床検査技師が資格要件となるものには、超音波検査士、健康食品管理士、日本糖尿病療養指導士、治験コーディネーターなどがあります。

卒業生は病院をはじめ、検査センターなどにおいて第一線の臨床検査技師として活躍しています。また、製薬、食品、化学関連の企業に就職し、その研究所で商品開発や研究で活躍することもできるでしょう。

国際医療科学主専攻の学生は、卒業時に学士(国際医療科学)の称号が与えられます。また、3年次編入学生を除き、希望に応じ自由科目を選択することで、臨床検査技師国家試験受験資格を得ることも可能です。



卒業後の進路



進学

筑波大学人間総合科学研究科(修士課程)、筑波大学グローバル教育院(一貫制博士課程)、東京大学医学系研究科 医学専攻 など

病院

杏林大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京都済生会中央病院、牛久愛和総合病院、国立病院機構 など

企業・公務員

株式会社エスアールエル、大正富山医薬品株式会社、塩野義製薬株式会社、シミック株式会社、川崎市役所 など

その他

在校生・卒業生からのメッセージ

加藤 千尋さん

国際医療科学主専攻 3 年生
茨城県立水戸第二高等学校
出身

医療科学類3年の加藤千尋と申します。皆さんに伝えたいことは、筑波大学・医療科学類に入学して良かった!です。こう思った3つの理由を説明します。

1つ目は医療科学類では切磋琢磨しあえる友達ができるからです。筑波大学には25学類がありますが、医療科学類は中でも忙しい学類だと言われています。毎日多くのレポートや試験勉強に同級生とひーひー言いながら乗り越えたり、旅行などの遊びを企画したりして、充実した大学生活を送ることが出来ます。さらに、1学年が約40名しかいないので、縦の繋がりが横の繋がりが非常に強いところも特徴的です。毎日仲のいい友達と楽しく過ごせること、真剣に将来のことを語りあえることは医療科学類の良いところだと思います。

2つ目は英語力を磨くことが出来るからです。私が所属している国際医療科学主専攻は、3年次から卒業研究が始まります。配られた英語論文の内容について発表する授業があり、英語を読む力、話す力が養われ、格段に英語に触れる機会が増えます。今まで触れてこなかった医学英語に苦戦しながら、英語力を上げるべく精進しています。

3つ目は国際交流が盛んだからです。これは医療科学類だけでなく大学全体にいえることです。筑波大学には多くの留学生が在籍しており、学類でも国際交流が盛んです。私は1年生では英語でグループワークを行う授業や、ベトナムに研究室体験を行うコース、さらに2年生の春休みには留学生を招き研究室体験を行うコースに参加しました。多くの外国人の友達ができ視野が広がりました。さまざまなバックグラウンドを持つ友達と出会えることは筑波大学だからこそだと思います。

以上のことから、医学に興味がある、臨床検査技師になりたい、研究開発に携わりたいという学生にとって医療科学類は最高の学び舎だと思います。私は将来、病院就職に限らず、大学で学んだ事を生かせる職に就きたいと考えております。色んなチャンス機会を得られる筑波大学、医療科学類で多くのことを吸収し、医学に貢献できる人になりたいです。ぜひ、医療科学類への入学をぜひお待ちしております。

鈴木 晴媛さん

医療科学主専攻 3 年生
国立お茶の水女子大学附属
高等学校出身

私がこの学類への入学を決めたのは、「筑波大学」という名前に惹かれたことと、「医療関係の仕事に就職できたら格好良いかも」という漠然としたイメージと動機からでした。けれど、いざ授業を受けてみると、もともと高校の生物の授業が好きだったこともあり、自分が興味深く感じる講義や実習がいくつもあり、現在はこの選択をして良かったと感じています。医療科学類では、臨床検査技師の資格取得に関連した内容だけでなく、幅広く医学・生物学の基礎的な内容を学びます。筑波大学では研究が盛んで、各分野の専門家の先生から講義を受けることができます。これが、専門学校ではなく、この大学で4年間かけて学ぶ醍醐味だと思います。そのように勉強する中で、私は「学んだことを臨床検査の場で活かしたい」という思いが強くなりました。そのため、3年生になる今年度からは、病院での実習期間が長く、様々な実習科目が必修となっている「医療科学主専攻」への進級を選択しました。

しかし、国際医療科学主専攻を選択しなかったからといって国際交流の機会が乏しいということではなく、長期休暇中に行われる短期海外研修へは、積極的に参加させていただいています。また、医療科学類では、海外から日本への短期留学生との交流プログラムも行っており、私は1・2年次に参加しました。国際交流の機会が多く、英語や他国の文化にも興味がある人には適した環境であると思います。

医療科学類は、必修科目が多く、かつ実習も多く、楽にはこなせない授業スケジュールとなっています。しかし、その分、自分の力を伸ばすことのできる場所だと思います。実験器具の操作やPCソフトのExcel・Wordを使つてのレポート作成の力は、数ある実習をこなすうちに上達してくるのを実感しています。また、一学年の人数が少人数で、アットホームな雰囲気があるところも大きな魅力だと思っています。このような医療科学類の良さを他の方にも実際に体験してもらえれば幸いです。

私は、現在、医療科学類国際医療科学主専攻に在籍しています。医療科学類への入学を考えている皆さんに、当学類の魅力をお伝えします。

私が感じている医療科学類の魅力は、臨床検査技師の国家資格取得のための勉強だけでなく、医学と科学を広く学べることです。

1・2年次では、臨床検査技師の基礎と基礎医学に関する講義や実習があります。必修科目が多く、レポートや授業に追われる忙しい日々でしたが、同級生と助け合い、充実した日々を送っていました。幅広く学ぶなかで、自分の興味を探ることができました。

3年次になると、2つの専攻に分かれます。国際医療科学主専攻では、3年次から研究室に配属され、より多くの時間を研究活動に充てることが可能です。私は、2年次までの講義や実習で生理学に興味を持ったので、現在は神経生理学の研究室で、実験をしたり、論文を読んで知識を蓄えたりしています。授業では、英語で専門科目を学んだり、プレゼンテーションを行ったり、医学英語に触れる機会が多く与えられます。海外研修や、留学生との交流の機会もあります。私も、何度か参加しましたが、語学力の向上だけでなく、海外の研究事情やキャリアの考え方を知り、医学の発展に励む仲間が海外にもできたのは、とても良い刺激になりました。また、国際医療科学主専攻であっても、ほとんどの人が国家資格取得を目指すので、臨床と基礎の双方を学ぶことができるのも魅力の一つです。

医療科学類には様々な夢を持った人が集まっています。臨床検査技師としてのスキルアップを目指す人はもちろん、新規薬剤の開発、医療機器の開発、基礎医学の発展など、MedicineとScienceに関わる幅広い選択肢があります。私は、将来の具体的な職業は未だ定まっていませんが、医療科学類で学んだ医学と科学の面白さは、将来役に立つと思っています。

医学研究や医療に興味がある方にとっては、とても有意義な充実した4年間を過ごせる魅力的な学類だと思います。

岡崎 実那子さん

国際医療科学主専攻 4 年生
茨城県立竹園高等学校出身

小林 昂平さん

医療科学主専攻 4 年生
茨城県立竹園高等学校出身

こんにちは。医療科学類 4 年生の小林昂平です。突然ですが皆さん将来になりたい目標は定まっていますか？臨床検査技師になりたい、最先端の基礎研究や臨床研究に取り組みたいといった明確な目標を持っている人、中には医療に興味はあるけれどもなりた職業が定まっていないという人がいるかもしれません。

医療科学類ではそういった様々な思いに合わせたカリキュラムが組まれていることが1つの特徴となっています。臨床検査技師として働きたいのであれば専門学校に行けば同じような勉強ができます。しかし、ここ筑波大学にはスペシャリストがたくさんいます。様々な分野で活躍されている先生方に、最先端で行われている研究を解説していただける機会には他の学校では得られないものばかりです。さらに、病院実習での現場研修や、診療放射線技師・理学療法士と多職種連携で行うプログラムを通じて医療人として自分がどう成長していくかを考えるきっかけになりました。

また、日本にとどまらず海外に目を向けていることもこの学類の特色です。私はさくらサイエンスプランという海外の留学生を受け入れて1週間一緒に研究や国際交流を行うプロジェクトに参加しました。そこでは、英語でのコミュニケーションに四苦八苦しながらも、海外の方とともに笑いともに悩み、熱い意見を交わす貴重な経験をすることができました。この他にも医療科学類には、台湾やベトナム、インドネシアへの海外派遣プロジェクトなど日本にいては知りえない新しい視野を持つチャンスに得ることが出来ます。

今現在私は遺伝の分野に興味を持ち、サークルとアルバイトを掛け持ちしながら卒業研究を行っています。3年間はとても忙しくあっという間でしたが、それだけ密度の濃い時間を過ごすことができたと感じています。

皆さんも医療科学類を含めた大学4年間過ごすことで、自分の目指すべき将来像がしっかりと持てるようになるはずです。皆さんのご入学を心からお待ちしております。

皆さんこんにちは。私は平成29年度に筑波大学医療科学類を卒業し、現在同大学院人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻に在籍しています。私が医療科学類を志望した1番の理由は、臨床検査技師の資格が取得でき、かつ研究者としての道も開かれている点です。

当初私は臨床検査技師として働き、病気の早期発見に貢献したいと思っていました。というのも、親戚の病気の発見が遅れ、本来なら飲み薬で治せたものが手術しなければならなくなってしまったという経験から、治療はもちろん、検査の重要性を実感したからです。同じ時期にiPS細胞が話題になっていたことから、これについて勉強して病気の治療につながる研究もしてみたいという気持ちも強くありました。そこで臨床検査技師だけでなく研究者の育成も目指すこの医療科学類にたどり着きました。

医療科学類では臨床検査技師に必要な知識だけでなく、医科学について広く深く学ぶことができます。1学年40名ほどで、ほぼ全ての授業をみんなで受けます。そのため、仲が良く、結束力も強いです。講義、実験、実習、テスト、レポートに追われる毎日でしたが、みんなで協力して乗り越えることが出来ました。それぞれがサークルや部活動、アルバイトとも両立させ、充実した学生生活を送ることができた気がします。私は1年生からダンスサークルに所属していました。時間的にも体力的にも厳しい場面が多かったのですが、その分他学類の友達もでき、楽しい思い出もたくさん作ることが出来ました。

3年生後半の病院実習では実際に臨床検査技師の業務について学ぶ機会を得ました。実際に患者さんの胸に電極を貼付して心電図をとったり、尿検体検査を機器を使って行ったりしました。そして4年生からは自分の興味のある研究室を選び卒業研究を行いました。私は入学前から興味があったiPS細胞に関する研究を始めました。授業だけでなくこのような病院実習や卒業研究を通して、最終的に、私は卒業して臨床検査技師として働くのではなく、大学院に進み研究や勉強を続けて新しい治療法や薬の開発に携わり社会に貢献していきたいと思うようになりました。こういった選択が出来たのも医療科学類だからこそだと思っています。そして今大学院修士課程へ進学し、卒業研究をさらに発展させた内容で研究を続けています。

医療について学びたいが何になりたいか決めかねている、研究してみたいけど資格も取りたい、といった方にとって医療科学類は最適な環境だと思います。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

筑波大学をご検討中の皆さん、こんにちは。私は平成18年度卒業生の柴です。私は医療科学類の前身である看護・医療科学類、医療科学主専攻を卒業し、その後本学大学院で修士課程、博士課程を経て、現職に就きました。

医療科学類は臨床検査技師の国家資格を目指す学類でありながらも、それに必要な科目に限らず医学、生物学、分子生物学など様々な学問を学ぶチャンスがありました。講義をして下さる先生方のバックグラウンドも多岐にわたり、教員である一方で各分野で最前線を走る研究者である先生方から、ご自分の研究について講義で聞けたのは本当に貴重な機会でした。私が現在の上司である野口雅之教授に出会ったのも、2年次に受けた基礎医学総論という授業だったことを今でも覚えています。野口教授の「肺癌を完治できる癌にしたい」、「医学部(医学群)で行う研究は、病気の予防、診断、治療のいずれかに役に立つものでなければならない」という強い信念に共感し、3年次から卒業研究生としてご指導頂くことになりました。尊敬できる指導教官と出会えたことは本当に幸運だったと感じています。

また、卒業研究の指導教官のみならず、学類のクラス担任の先生や、講義や実習を受け持つ先生方との出会いにも本当に恵まれていました。学生にきちんと向き合い共に考えてくださる先生方が多いのも医療科学類の魅力の1つで、私は学生の頃勉強のことだけでなくプライベートなことや将来の不安まで相談した記憶があります。その時に築いた先生方との関係は、自分自身が教員となった今でも温かいものであり、かけがえのない財産となっています。

大学生活で得る最も重要なものの1つは人との出会いです。私が良い師、良い友と出会った筑波大学を自信を持って皆さんにお勧めします。

柴 綾さん

平成18年度卒業
筑波大学医学医療系 助教

キャンパスライフ

イベント

筑波大学では、年間を通じて各種イベントが開催されています。

- 4月・5月 新入生歓迎祭（入学式終了後に本祭）
筑波大学に1日も早く慣れてもらうよう、サークルを中心にさまざまな催しものが繰り広げられます。
- 5月 宿舍祭（やどかり祭）
学生宿舍入居学生を中心に、神輿、模擬店、野外ライブ等が披露されます。
- 5月・11月 スポーツ・デー
- 11月 学園祭（雙峰祭）
学園祭は筑波山にちなみ雙峰祭と名付けられています。

課外活動

趣味を活かし、たくさんの友人を得ることは、充実した学生生活を送る上で大切なことです。筑波大学には、文化系、体育系、芸術系の約250のサークル団体があります。

学生宿舍

学生宿舍は、筑波大学構内の一の矢地区、平砂地区、追越地区及び春日地区にあり、新入生は、遠方の希望者から優先的に個室入居できるよう配慮されています。一般的な宿舍の広さは約10㎡（約6畳）で、居室には、机、椅子、ベッド、洗面台、宿舍電話等が備え付けられています。また、各居住棟に共同の簡単な料理が作れる補食室、洗濯室、シャワー室、トイレがあります。これとは別に共用棟があり、ここには管理事務室、食堂、浴場（平砂地区のみ）、売店、理容室、美容室などが備わっています。1ヶ月の費用（平成30年度）は、宿舍費15,380円（未改修棟）または19,410円（改修棟）でこの外に電気料、食費、入浴料等が必要です。学生宿舍では居住者の安全確保と防犯のため、暗証番号方式によるセキュリティシステムが建物入口に設置されています。全ての居室にLAN（有線および無線）が敷設され、プロバイダーと個別契約をすることなくインターネットが利用できます。さらに、キャンパスの国際化推進のため、平成29年4月から国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舍（グローバルヴィレッジ）の運用が開始されました。

アパート等

本学周辺地域には、相当数のアパート等があります。家賃等については、地域、建築年数や付属設備の有無により差がありますが、平均的な家賃は、アパート（6畳、台所、バス、トイレ付）で月額約35,000円～50,000円位です。敷金及び礼金は、それぞれ家賃の1～2か月相当分です。

授業料免除・奨学金・アルバイト

授業料免除……経済的理由等で納付が困難で、かつ学業成績が優秀な場合に免除される制度です。

奨学金……筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体、各種法人等が募集する奨学金制度があります。

アルバイト……家庭教師、語学教師、塾講師、一般等のアルバイトを紹介しています。



ゆりの木通り



新入生歓迎祭



宿舍祭（やどかり祭）



学生宿舍・居室



つくばエクスプレス



サークル活動



学園祭



けやき通り



卒業式(医学群)



つくば駅周辺



スポーツ・デー

学年暦(平成30年度)

春学期: 4月1日～9月30日

4月	学年開始	4月 1日
	春季休業	4月 1日～ 4月 5日
	入学式	4月 6日
	新入生オリエンテーション	4月 6日～ 4月11日
	春学期 授業開始	4月12日
5月	春季 スポーツ・デー	5月12日～ 5月13日
6・7月	春 AB モジュール期末試験	6月26日～ 7月 2日
7・8月	春 ABC モジュール期末試験	8月 1日～ 8月 7日
	春学期 授業終了	8月 7日
	期末試験予備日	8月 8日
8・9月	夏季休業	8月 9日～ 9月30日

秋学期: 10月1日～3月31日

9月	秋学期 入学式	9月28日
10月	開学記念日	10月 1日
	秋学期 授業開始	10月 1日
11月	学園祭	11月 2日～11月 4日
	秋季 スポーツ・デー	11月17日～11月18日
12月	秋 AB モジュール期末試験	12月17日・20日～12月26日
12・1月	冬季休業	12月27日～ 1月 6日
2月	秋 ABC モジュール期末試験	2月4日・8日～2月14日
	秋学期 授業終了	2月14日
	期末試験予備日	2月15日
2・3月	春季休業	2月16日～ 3月31日
	卒業式	3月25日
	学年終了	3月31日



筑波大学における 医学研究分野

**生命科学を基盤に、複雑系である生命現象の理解と、
疾患の本質の解明をめざす。**

解剖学・発生学
解剖学・神経科学
神経生物学
診断病理学
実験病理学
がんシグナル
腎・血管病理学
システム神経科学
認知行動神経科学
分子行動生理学
分子細胞生物学

遺伝子制御学
生理化学
生体シグナル制御学
分子神経生物学
分子ウイルス学(感染生物学)
微生物学(感染生物学)
寄生虫分子生物学(感染生物学)
免疫学
遺伝医学
分子遺伝疫学・社会健康医学
ゲノム生物学

再生幹細胞生物学
医工学
実験動物学
ケミカルバイオロジー・IT創薬
医学物理学
放射線生物学
環境生物学
環境分子生物学
環境微生物学
分子発生生物学
環境保健学(産業精神医学・宇宙医学)

**「生命を尊び、生命を救う」
そのために、臨床、研究、教育、社会貢献を全力で実践する。**

腎臓内科学
膠原病リウマチアレルギー内科学
血液内科学
消化器内科学
呼吸器内科学
循環器内科学
代謝内分泌・糖尿病内科学
神経内科学
皮膚科学
感染症内科学
乳腺内分泌外科学
形成外科学
呼吸器外科学
心臓血管外科学

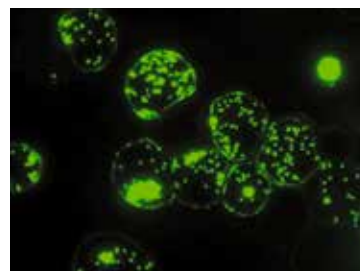
小児外科学
消化器外科学
脳神経外科学
整形外科
腎・泌尿器外科学
眼科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
歯科・口腔外科学
精神医学
災害精神支援学
小児科学
産科婦人科学
画像診断・IVR学
放射線腫瘍学

麻酔科学
臨床検査医学
スポーツ医科学
臨床薬理学
救急・集中治療医学
医療情報学
地域医療教育学
医学教育学
医学英語教育
臨床腫瘍学
総合がん診療センター
橋渡し・臨床研究学
医療科学
病院診療研究グループ
(病理部など)

**複雑・高度化した保健医療福祉環境の中で、人々が健康で安心して
生活できる社会の実現を目指す研究・教育者を養成する。**

ウィメンズヘルス看護学・助産学
小児保健看護学
がん看護・緩和ケア
精神保健看護学
国際地域ケア
地域健康学
環境看護学
リハビリテーション看護学・慢性看護学
高齢者看護学
臨床心理学
国際看護学
ヘルスサービスリサーチ
臨床試験・臨床疫学
社会精神保健学

法医学
国際社会医学・福祉医療学
保健医療政策学・医療経済学

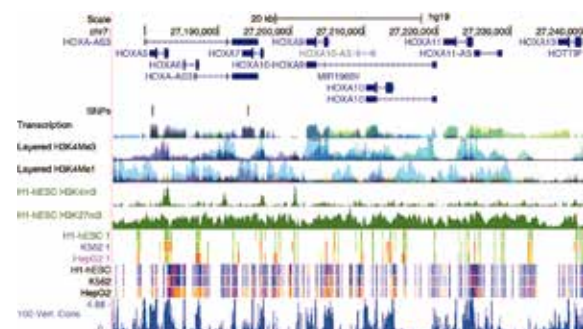


生命医科学域における研究

基礎医学分野では、ヒトの正常と病態の解明を目指して、生命活動を支える分子の働きから、個体の発生、複雑な脳の機能、感染性生物と防御反応、免疫とアレルギー、がんなどについて、世界をリードする研究が多数行われています。

● 遺伝子の発現調節

ゲノム解析技術の進歩により、ヒトの遺伝的多様性と個性や病気になりやすい体質との関連が解析されています。また、遺伝子スイッチのオン・オフの調節についても、多くの因子が協調して遺伝情報の発現を制御する、システムレベルでの理解が進んでいます。筑波大学には、ゲノムの制御状態「エピゲノム」を構成する転写因子やクロマチン構造に関する優れた研究の蓄積があり、ウイルスの複製、がん細胞の増殖、血球の発生・分化、薬物・毒物に対する応答などに関する幅広い分野の研究の基盤となっています。



UCSC ゲノムブラウザ上で可視化したヒト HOXA 遺伝子クラスターのエピゲノム：クロマチン構造、ヒストンタンパク質の修飾や DNA のメチル化状態を解析することによって、細胞の分化・発生段階、ヒト疾患に関連したゲノムの制御状態が明らかにされつつあります。膨大なゲノム解析データをインフォマティクス手法を用いて統合的に解析します。

● 遺伝子改変動物

筑波大学の基礎医学研究のもうひとつの特徴は、遺伝子改変動物を用いた研究が大変盛んだということです。さまざまな生体内分子の機能や最近注目されている幹細胞の研究についても、生きた動物の体内でその機能を調べることが重要視

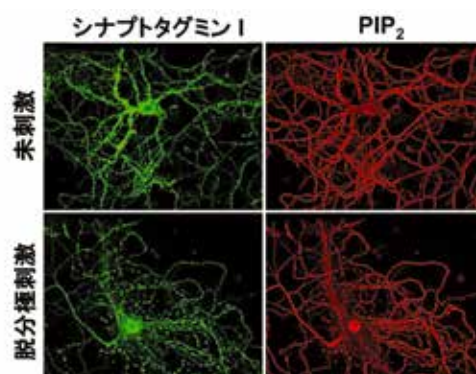


されています。さらにはさまざまな病気のモデル動物を作製し、個体全体の中で正常と病態を理解していこうとする気運が高く維持されています。

血管可視化マウス (Flk1-GFP;Flt1-tdsRed BAC Tg) の妊娠 10 日目の胎仔の像。このマウスは血管の発生や病的血管新生の研究に有益なモデル動物である。

● 脳科学研究

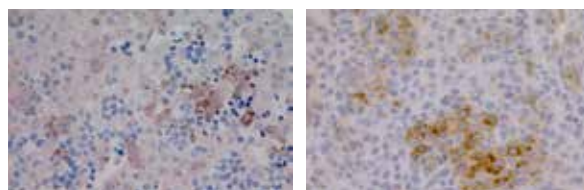
筑波大学では、解剖学、生理学、生化学の各分野から神経科学に取り組んでいる研究グループがあり、神経回路の形成過程や運動の制御、睡眠・覚醒の調節をはじめとする脳高次機能に関する研究など、さまざまな角度から脳の研究が行なわれています。



現代の細胞生物学の技術では、動物個体の臓器や組織を構成する様々な細胞を取り出してシャーレで培養することが可能となり、また、細胞内に存在する蛋白質や分子を容易に可視化することができます。マウスの脳から神経細胞を取り出してシャーレで培養すると、軸索や樹状突起と呼ばれる長い突起を伸ばして、標的の神経細胞とシナプスを形成します (写真左：緑色の斑点は神経細胞内のシナプトタグミン I 蛋白質を可視化したシナプス部位です)。神経細胞の興奮 (脱分極) に伴って神経伝達物質が放出され、これを標的の神経細胞が受け取ることで神経伝達が行われます。神経細胞の脱分極時にのみ、シナプス部位では特殊な分子 (写真右の赤色はリン脂質の PIP2 を可視化したもの) が産生され、神経活動に重要な役割を果たすことが見出されています。このような研究は、学習や記憶など、脳高次機能の分子メカニズムを理解するうえで大変重要です。

● がん研究

がんの研究もさかんです。転写の調節因子や細胞内のシグナル伝達分子の異常による発がんに関する研究や分子生物学をがんの診断に応用する研究などが行なわれています。



がんの特質の一つは『先祖帰り』です。胎児の組織で特徴的に発現する遺伝子がん組織に発現することがあり、これらの胎児性蛋白はがん診断のマーカーになるだけでなく、治療のターゲットにもなりうる蛋白です。左はブタの 5 週目の胎児組織で、胎児の初期に特徴的に高発現する蛋白の一つである Dkk3 の免疫染色像です。胎児組織に観察される髄外造血細胞に混じて存在する胎児の幼稚肝細胞に陽性です。右はヒト肝芽腫組織でこの胎児性蛋白は腫瘍細胞でも発現している事がわかります。

臨床医学域における研究

臨床医学分野では、多数の教員がいくつもの研究グループを構成し、さまざまな疾患の原因・発症機序・病態の解明と、新しいより優れた診断・治療・予防法の確立をめざして研究を行っています。

●最先端の臨床医学研究

臨床医学分野においては、近年飛躍的な進歩を遂げた細胞生物学、分子生物学などの新知見や、細胞工学、細胞療法、再生医療などの新技術をいち早く取り入れた先進的な臨床研究が進められています。発症機序がよく解らなかった多くの疾患について、原因から症状発現に至るまでの一連の過程が、分子レベルで解明されつつあります。分子病態解析、遺伝子解析などの手法は、研究のみならず既に日常の検査としても広く取り入れられ、それぞれの個人の病状に応じた最適な治療（オーダーメイド医療）を提供することに貢献しています。ハイテクノロジーと最新の機器を駆使した研究、診療も盛んに行われ、3D-CT、3D-血管造影などの新画像技術、カテーテル・アブレーションによる不整脈治療、内視鏡手術などの面で臨床応用が進んでいます。

がん、エイズ、遺伝性疾患、自己免疫疾患などの難治性疾患に積極的に取り組み、臓器移植、細胞療法、遺伝子治療、再生医療などの新しい治療法の開発を強力に推進しています。再発白血病に対する遺伝子治療、肝移植、肝細胞再生研究などがその一例です。また日本では少数の限られた施設でのみ実施可能な、がんに対する陽子線治療は優れた成績をあ



げ、全世界から注目されています。脳腫瘍に対する中性子捕捉療法は、日本原子力研究所との共同研究として行われている筑波ならではのプロジェクトです。がん治療法の開発においては、このような先端研究のみならず、一定の治療計画に基づいた治療成績を継続的に集積し、データベースを構築していくことが極めて重要です。このような信頼性の高いデータベースを構築するために、附属病院ではいくつもの先進的な質の高い臨床試験が実施され、新しい治療法の開発に寄与しています。一方、動脈硬化、高脂血症、糖尿病、高血圧などの生活習慣病やメタボリック・シンドロームあるいはがんなど悪性腫瘍の分子病態解析、動物モデル作成、予防法・治療法に関する研究にも力を入れています。

●世界へ— つくばの研究ネットワーク

医局講座制を廃止したメリットを活かして、学問分野にとられない多彩な共同研究が行われていることも、大きな特徴です。基礎医学分野や社会医学分野との共同研究はもちろん、体育科学分野との協力による充実したスポーツ医学研究は、本学ならではのものとして全国的にも有名です。また、研究学園都市つくばには、多数の研究施設があり、これらの研究施設で開発された医療技術は、臨床の場に広く取り入れ



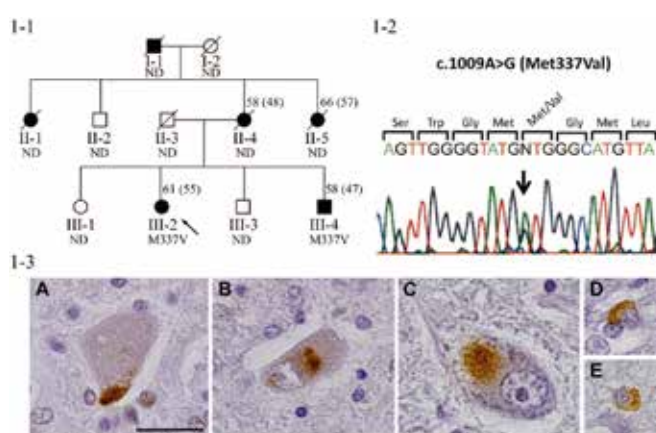
陽子線治療

られています。周辺研究施設との研究交流は、臨床研究のみにとどまることなく、グローバル化の流れの中で、宇宙医学、環境医学、国際医学協力など、広い視野にわたる学際的研究が展開されています。

● 高度先進医療の場 ― 筑波大学附属病院

臨床医学分野における活発な研究活動は、附属病院におけるハイ・レベルの診療に反映されています。研究を支える多数の教員は、同時に附属病院における診療グループを構成し (<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/outpatient/department/index.html>)、学生、レジデントの教育にあたりとともに、地域医療への貢献および高度先進医療の推進をめざして、診療に従事しています。特に、研究室で得られた研究成果を臨床の場に還元するための橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)に、附属病院全体として積極的に取り組んで

います。筑波大学および周辺研究施設で得られた研究成果を、より迅速かつ効率的に臨床応用することを目的として、「つくば臨床医学研究開発機構(T-CreDO)」が開設されています。

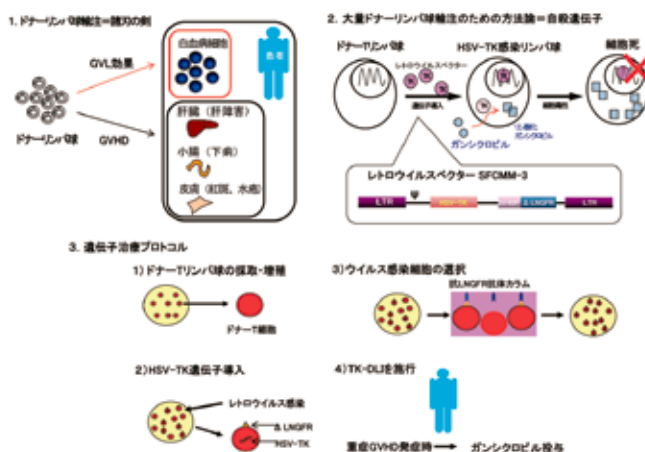


常染色体性優性遺伝性の家族性筋萎縮性側索硬化症の1家系(1-1)の遺伝子解析により、TDP-43 M337V 変異が見出され(1-2)、神経病理学的には TDP-43 陽性の細胞質内封入体が脊髄前角細胞(A, B)や舌下神経核(C)、中心前回のグリア細胞(D, E)に認められた(1-3)。

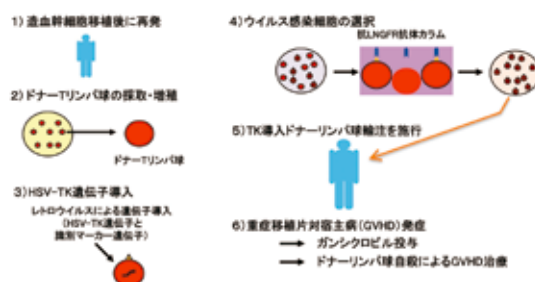


次世代医療研究開発・教育総合センターが設置している臨床研究用細胞処理施設。Tリンパ球に遺伝子を導入し、造血幹細胞移植後に再発した患者に輸注する臨床試験などを行っている。

同種造血幹細胞移植後再発白血病に対する遺伝子治療



遺伝子導入免疫細胞療法の開発



保健医療学域における研究

社会医学では、主として社会や人間の集団を対象とする研究分野です。疾病の予防と健康管理、公害や環境問題、保健医療政策など、さまざまなテーマを取りあげ、研究成果を社会に還元して人類全体の健康に貢献しています。社会医学の研究が充実していることも筑波大学の特徴の一つです。

●健康情報の解析・評価

地域での実践的なフィールドワークとして、環境や生活様式の変化に伴う生体反応や、疾病構造の変化をいち早くとらえ、それを予防する研究があげられます。統計学や情報科学 (Information Technology) を用いた解析や評価を行い、疾病の原因探究や疾病予防・健康管理・健康増進に役立てています。

●ヒトゲノム解析を用いた疾患研究

ほとんどの疾患は、個人個人の遺伝素因と、環境因子や生活習慣との相互作用によって発症すると考えられています。ヒトゲノム解析研究の発展を受け、今後の医学・医療は、ヒトゲノム多様性に基づく、環境因子に対する応答や、生活習慣の影響の個人差を、分子レベルで解明することが必要です。社会医学系では、ヒトゲノム解析の手法により、多因子疾患の「個別化医療」さらには「個別化予防医学」の確立を目指した研究を進めています。

●国際共同研究 ― 高齢化社会に向けて

日本とは環境や生活様式が異なる国々とのさまざまな比較研究が進められています。未来の日本人が健康で長生きできるよう、生活習慣病、老人病の原因を社会の中に探り当て、それを取り除こうとする包括的な予防研究がなされているわけです。今日の日本人の長寿や、老人保健法、健康増進法の制定には、このような研究が大きな役割を果たしてきました。



国際保健に関する WHO 会議への出席

●社会生活の人権と安全を守る

法医学では、医学を法的問題の解決に応用するために、社会的実践として変死体の解剖を行い、死因を病理学的・中毒学的方法等で解明しています。また、個人識別や犯罪捜査のための DNA 型検出法や、薬毒物の測定法の開発、中毒のメカニズムについても研究し、より良い社会の維持や治安のために大きく貢献しています。

●メンタルヘルスと社会

現代社会では、児童や老人の虐待、ドメスティック・バイオレンス、アルコール・薬物依存、自殺や犯罪を始めとする逸脱行為など、メンタルヘルスと密接に関係するさまざまな現象が発生しています。これらの現象の実態と原因を科学的手法で解明し、予防や治療のための方法を開発しています。

●環境問題に取り組む

アジア地域で特に問題視されている井戸水からの慢性ヒ素曝露による中毒症状や世界的に深刻な問題である大気中微小粒子 (PM2.5) 曝露によって生じる各種疾患を分子レベルで研究しています。また、このような環境汚染問題に対処するために、世界各国と共同して研究に取り組んでいます。

さらに、地球温暖化による疾病負荷に関する研究を WHO と共同で行っています。

茨城県神栖町における有機ヒ素による健康被害の疫学的調査を環境省の依頼により行っています。

●医療・福祉の政策につながる研究

多様化する社会における効果的な政策立案のためには、その基礎となる調査研究が必要です。少子高齢社会のもとで公平かつ効率的な医療費支払方式はどうあるべきか、医療費の適正化対策、保健医療サービスの質の評価、費用効果分析などの現代的課題について、実証データや地域および国際比較を通して調査研究しています。また、海外では国際保健医療協力のプロジェクトに専門家として参画しています。

看護学の研究対象は看護の専門技術や、胎児を含めたこどもから高齢者まであらゆる人々が抱える健康問題まで幅広いことが特徴です。高齢化社会、医療の高度化、国際化社会が進む現在、看護学における研究テーマは多岐にわたっており、研究成果が臨床現場で応用され、人々の健康維持・増進のために活かされています。

● 高齢者の生活リズムの変調に対する看護介入の効果を評価する研究

高齢者の3割が睡眠覚醒障害をもつといわれています。不眠は、免疫力を低下させるだけでなく、うつ状態や認知症の発症に関連し重大な健康問題であると捉えることができます。北海道から沖縄まで、高齢者の皆さんの生活リズムと睡眠の質について調査と測定を行った結果、概日リズムの同調因子(光、運動、食事、社会的交流)と生活習慣病および嗜好品などが強く関与していることが見出されつつあります。このような実態から、生活リズムを調整する看護介入の意義と効果を評価する方法を開発しています。医療費高騰のおりから、睡眠薬による対処と比較した看護介入による医療経済効果についても検討しています。



● 国際発達ケア研究・コミュニティ・エンパワメントと生涯発達ケアに関する研究

子どもからお年寄りまで、一生涯にわたる発達を踏まえながら、当事者の力を引き出すエンパワメントを科学する研究を行っています。エンパワメントとは「元気になる、元気を引き出す、一緒に元気になる」こと。誰もが持っている限りない可能性や力を最大限に発揮できる環境を整える方法を科学します。諸外国と共働しながら、個人や組織、地域の力を引き出すコミュニティ・エンパワメントの仕組みづくり、よりよいケアの実現を図ります。



パプアニューギニアの子どもたち。
感染予防のための健康教育の仕組み作りが大切。

● 保健師教育のあり方・保健師活動に関する研究

少子高齢化の急速な進展、生活習慣病の増加等、疾病予防のための保健指導、介護予防など、地域保健活動の重要性が今日ますます高まっています。そのような状況に対応できる保健師などの地域保健従事者のあり方を追求するために、教育環境の現状と課題を科学的に分析し、今後の方向性を示唆する研究を行っています。具体的には大学における地域看護学の履修時期、地域看護学の特徴を明確にする研究、また現任保健師教育の現状と課題を分析し、保健師育成指針、プログラムを作成し、提唱しています。今後は、保健師が用いるスキルを抽出し、その体系化を試みる研究を進めていく予定です。

● 慢性疾患を持つ子どものトランジションを支援する研究

医療の進歩により、慢性疾患をもちながら成人期へと成長していく子どもが増加しています。小児期から成人期へのトランジションという視点を持つことが重要となっています。私達は、そのような視点に基づいた看護援助についての研究を進めています。具体的には、子どもの発達段階に応じた方法で病気を説明し、子どもの理解を促すことで、子どもが病気を受容するための基盤を作る看護支援を提案しています。また、子どもが自律して健康管理を行い、自ら意思決定していけるよう支援するため、ヘルスリテラシーなど子ども自身の健康に関連する力を引き出し、向上させるための看護援助を検討しています。

● 補完代替療法の身体に及ぼす影響と看護実践への応用

補完代替療法というのは「通常医療の代わりに用いられる医療」のことで、鍼灸や漢方に代表される中国医学、欧米で盛んなハーブ療法などが含まれます。日本でも一部の領域でアロマセラピーや音楽療法が取り入れられていますが、まだ一般的な使用には至っていません。その理由の1つにはっきりとした効果がわからない、つまり科学的根拠が少ないということがあげられています。私たちは心地よい香りを嗅いだときや静かな音楽を聴いたとき、身体にどのような影響が出るのか調べ、看護実践の場での活用について取り組んでいます。ストレスの多い療養環境・社会の中で少しでもリラクゼーションが得られ、健康増進につながるケア方法を考えています。

FAQ

共通

Q1 他学群・他学類の授業は受講できますか？

時間的に可能な限り、受講できます。ただし、受講を可とする学群、学類や学年を定めている科目もあります。なお、筑波大学は東京ドーム55個分の広大なキャンパスを持つので、移動に時間が取られる場合があり、注意が必要です。

Q2 単位について教えてください。

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を計る基準となるものです。大学で開講している授業科目にはそれぞれ単位数が定められ、この単位を修得するためには、所定の時間を学修し、試験その他の方法により合格と判定されなければなりません。卒業の判定は、この単位数に基づき決定されます。卒業に必要な単位は、医学類では6年間で201単位、看護学類では4年間で124単位(保健師コースは134単位)、医療科学類では4年間で125.5単位となっており、在学期間内で余裕を持って修得できるようにカリキュラムが作られています。

Q3 ケア・コロキウムとは何ですか？

この科目は総合大学である本学の利点を生かした特徴的なものとなっています。医学群の3学類の学生だけではなく、人間学類のように他学類で医療・福祉に関連した科目を学ぶ学生たちにも門戸を開いており、実際のケースのシナリオについて、多種専攻学生で構成されたグループで討論をする体験から、幅広い視点でチーム医療を学ぶことができます。



～よりよいケアを提供するために～
ケア・コロキウムにおける3学類及び
東京理科大学薬学部学生の討論

Q4 サークル活動やアルバイトは可能ですか？

講義から学べない貴重な体験を、サークル活動から得ることができます。様々な文化系／体育系・全学系／医学系のサークルがあり、学生の多くは、サークル活動と学業を両立させています。アルバイトや地域のボランティア活動も積極的に行っています。

医学類

Q1 筑波大学医学類の特徴のある教育方針や設備について教えてください。

将来、臨床医、医学研究者、医療行政等の先端で広く活躍できる、日本のリーダーとなるべき人材の育成を目的としています。問題を抽出し科学的に考え、患者の立場に立てる臨床医、また癌や脳の疾患、感染症などの病気の機序を解明し臨床現場にフィードバックすることを目的とした基礎医学研究を推進する研究者、社会医学に貢献できる医師の養成を目指し、チュートリアル、クリニカル・クラークシップを中心にカリキュラムが組まれているのが特徴です。チュートリアルは、少人数教育で、課題について学生が議論、調査して解決していきます。また、医学教育を統括する部署(PCME)は、教育を科学的に推進するユニークな部門であり、教育の推進を担っています。設備は、教育効果をあげるために適宜刷新しており、医学教育としては日本のトップレベルであると自負しています。



スキルスラボでの実習

Q2 研究に興味があるのですが、学生時代から医学研究に関わることができますか？

入学直後の時期に研究室訪問があり、医学研究分野で活躍する教員の研究の場をみる機会があります。研究に関心のある学生は、2年次以降に「研究室演習」を選択し、放課後や長期休暇を活用して、興味のある分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究に参加することができます。更に、5年次後半以降、医学研究者養成コースである「新医学専攻」を選択して、将来へつなげる道が用意されており、今まで研究成果を論文としてまとめた学生もいます。



医学類・研究室演習



看護学類・成人看護学実習



看護学類・小児看護学実習

看護学類

Q1 看護学類では具体的にどのような勉強をしているのですか？

看護に必要な知識は、人間の身体の構造や機能、病気に関すること、さまざまな状況での心理を理解する理論や方法、看護に関することなど幅広く学びます。また直接医療施設や保健福祉施設に出向いて実習も行います。また、専門職として一般教養も必要なので、筑波大学では総合大学のメリットを活かして、さまざまな分野の科目を学ぶこともできます。

Q2 他大学と比べて筑波大学看護学類の特徴的なものは何ですか？

本学類は、科学的根拠に基づいた看護学の確立を目指しています。講座制がないので、教員一人一人がバラエティに富んだ研究や教育に取り組めるということが他大学にない特徴です。学生にとっては特定の看護論に偏ることなく幅広い視野で学習することができます。グループワークも多いので、主体的な学習能力が養成されますし、そのために、専門性の高い、より高度な学問を推進するための大学院も設置しています。

Q3 資格取得について教えてください。

看護師、保健師国家試験受験資格が得られます。また所定の科目を修得することにより養護教諭一種免許状が、保健師国家試験合格後申請すれば養護教諭二種免許状が授与されます。養護教諭コース及び保健師コースは選択(選抜)制で人数の制限があります。

Q4 実習について教えてください。

まず、附属病院や学外の様々な医療・保健に関連した施設で行う「臨地実習」があります。2年次の基礎看護学実習にはじまり、3、4年次では専門領域実習(成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域看護学、高齢者看護学)へと、その質、量ともに充実していきます。さらに4年次では「総合実習」として学生自身の関心や志向に応じた専門領域を選択して実習を行い、知識や技術をさらに深めることができます。また、養護教諭のコースでは、専門領域の実習が加わります。

医療科学類

Q1 医療科学主専攻と国際医療科学主専攻の違いを教えてください。

医療科学主専攻では、医療施設で臨床検査に携わる臨床検査技師や検査技術の研究開発を目指した企業などで活躍できる人材を育成します。検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う授業・実習を中心とした教育を提供します。

国際医療科学主専攻では医科学領域のグローバル企業、研究所などで世界的に活躍し、医学研究を通じて、国際社会に貢献できる人材を育成します。留学生と共に英語の授業・実習により学び、医科学に関する専門知識とコミュニケーション力、問題解決力を国際性の日常化の中で身につけていく教育を提供します。

Q2 卒業研究について教えてください。

4年次(国際医療科学主専攻では3、4年次)に行います。医学の50以上もの研究グループから提示されたテーマの中から1人1つずつ選んで行います。4年次秋学期開始前には卒業研究発表会があり、卒業研究論文集としてまとめられます。

Q3 大学院に進学した場合、どのような研究ができるのか詳しく教えてください。

人間総合科学研究科のフロンティア医科学専攻に進学した場合には、医科学コース、公衆衛生学コース、ヒューマン・ケアコースに分かれて研究がすすめられます。それぞれのコースに、多くの研究室が所属しており、その中から自分の興味がある分野の研究室で、テーマに沿って研究指導を受けます。最終的には、発表会や論文作成まで丁寧に指導しています。フロンティア医科学専攻が修了したら、社会人として活躍することも、大学院博士課程に進むこともできます。



医療科学類・心エコー実習



医療科学類・臨床薬理学実習

入学試験案内 平成31年度入学試験の概要（予定）

下記は入学試験概要（予定）です。

詳細は、必ず「平成31年度入学者選抜要項」（7月下旬公表）及び「平成31年度学生募集要項」（9月下旬公表予定）を参照してください。

推薦入試

学群・学類名（募集人員）		日 程	平成30年11月29日（木）	平成30年11月30日（金）
医学群	医学類	36名	小論文・適性試験(1)	適性試験(2)
	医学類地域枠（注1）	22名	小論文・適性試験(1)	適性試験(2)
	看護学類	25名	小論文	個別面接
	医療科学類	12名	小論文	個別面接

※推薦入学で不合格になった場合でも、あらためて個別学力検査等を受験することができます。

（注1）医学群医学類地域枠 茨城県内対象

個別学力検査等（前期日程）

学群・学類名（募集人員）		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験	個別学力検査等
			教科	教科・科目名等
医学群	医学類 前期 63名 地域枠 14名（注2）	前期 平成31年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、外国語 適性試験(1)(2)
	看護学類 前期 45名	前期 平成31年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語	国語又は理科（物理、化学、生物から1科目選択）、外国語 個別面接
	医療科学類 前期 25名	前期 平成31年 2月25日・26日	国語、地歴、公民、数学、理科、 外国語	数学、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、外国語 個別面接

（注2）医学群医学類地域枠 全国対象10名、茨城県内対象4名

学群編入学

学群・学類名（募集人員）		日 程	平成30年7月14日（土）	平成30年7月15日（日）
医学群	医学類	5名	適性試験(1)	適性試験(2)
	看護学類	10名	専門科目・小論文	個別面接
	医療科学類	3名	小論文・個別面接	—

※医学類の編入学の年次は第2年次とする。

※看護学類、医療科学類の編入学の年次は第3年次とする。

入試実施後の入試問題について

筑波キャンパスアドミッションセンター受験相談窓口及び東京キャンパス文京校舎進学相談コーナー窓口において、過去3年分の問題が閲覧できます。

※閲覧できる問題：

教科・科目問題、小論文等（口述試験等を除く）

問い合わせ先

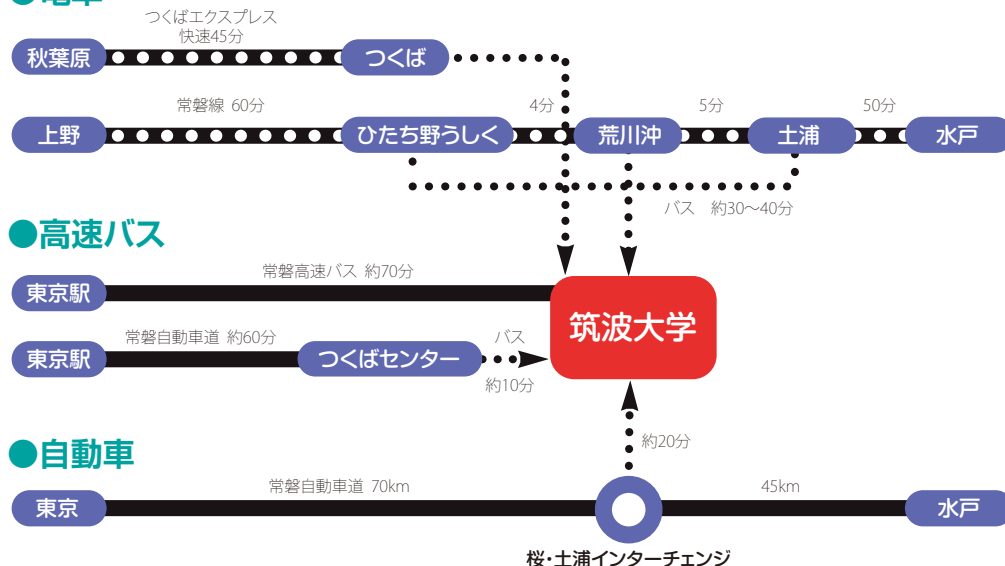
〒305-8577

茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学教育推進部入試課

TEL 029-853-6007

ACCESS



つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で約45分、つくば駅で下車、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

JR常磐線利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行きバスで約30～40分（筑波大学病院入口で下車）

常磐高速バス利用

- 東京駅八重洲南口から「筑波大学」行きの高速バスで約70分(筑波大学病院で下車)
- 東京駅八重洲南口から「つくばセンター」行きの高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

航空機利用

- 成田空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約100分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)
- 羽田空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約120分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)
- 茨城空港：空港→「つくばセンター」行きバス(約60分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行きバス(約10分)

筑波大学 医学群ガイドブック

編集発行：筑波大学医学群ガイドブック委員会
〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun/
2018年(平成30年)7月発行





筑波大学 医学群

医学類・看護学類・医療科学類

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

医学医療エリア支援室 学群教務

TEL 029-853-3412・3420

FAX 029-853-3411

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun/>